

高校第2・3学年（第5ステージ） 地域創造学 学習指導案

日 時 令和元年11月29日（金）

場 所 体育館

学 級 普通科 第2学年A・B組

第3学年A・B組

（男子20名，女子34名 合計54名）

授業者 板澤 毅尚 ほか8名

1 単元名 「地域への貢献を考える」（中間発表会）

2 単元について

（1）題材について

住田町または気仙地域には多くの資源や魅力がある。そのことについて理解を深めるとともに、「すみハピ！」プロジェクトとして地域の人々の暮らしに貢献する探究活動を試みてきた。構想発表や単元まとめ発表で互いのテーマを検討したが、そこでの他の生徒からの意見や教員からのアドバイスをいかし、どのような行動を起こしたか、そしてそれが地域への貢献とつながるにはどうしたらよいかについて発表をとおして考えさせ、表現力の向上、主体的な探究へとつなげたいと考えている。

（2）生徒について

住田町出身者だけでなく、約6割が周辺市町村からの通学生である。そのため、本校では対象とする範囲を住田町のみならず、その近隣地域も含めている。また、地域に関する知識に乏しい生徒もいる。そうした現状を踏まえ、オリエンテーションにおいて住田町の特徴についてクイズ形式やグループワークで理解を深めた。地域の伝統や文化、魅力、資源などをステップとして生徒自身が深めてみたいテーマを設定し、調査等に取り組んできた。

（3）指導にあたって

① 指導上の工夫

生徒個々が設定したテーマに沿って、調査研究を行うにあたり、教員からの指導は最小限にとどめるようにしてきた。学習者の興味を引き出し、それらを自らの探究テーマへと育むイメージである。ただし、そのままでは動けない生徒もいる。そうした生徒に対しては適宜面談をとおして具体的に何をしたらよいかを考えさせるなど、生徒のニーズに応じた指導を行っている。その際、教員から「～したほうがよい」といった直接的なアドバイスをするのではなく、「～についてどう感じているか、考えているか」「～をするには何をしたらよいか」といった問いかけをすることにより、生徒自身の気づきを促すように配慮している。

② 本時の取組

本時は、各分科会の代表として選ばれたグループ（個人）が調査・実践の結果を発表する。前時では、自分たちの所属する分科会での発表をとおして他者の経験を共有してきたが、他の分科会の優れた発表を聞くことにより、より多くの生徒の経験や体験を共有する場としたい。また、聴衆者はただ発表を聴く受け身の態度にならないように、発表内容をグループ内で共有し質問や意見を出すように促すことで、発表者と聴衆者の双方向の学びとなるようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|--------------------|--|
| 社会的実践力 | A 【地域理解】 | ○住田町や近隣地域の現状と課題を知り、自分の関心に沿ってさらに理解を深めることができる。 |
| | B 【社会参画に関する資質能力】 | ○住田町や近隣地域の現状と課題をふまえ、課題解決のための行動を考えることができる。 |
| | C 【人間関係形成に関する資質能力】 | ○町または地域の人々との対話を通じて、さまざまな考え方に気づき、他者と協働して活動することができる。 |
| | D 【自律的活動に関する資質能力】 | ○町または地域の課題を自分事として考え、その解決の方法を主体的に構想することができる。 |

(2) 評価規準

☆汎用的スキル ★態度・意欲・学びの価値

| 資質能力 | | 評価規準 | | |
|------|----------------|-----------------|---|---|
| A | ◎地域理解 | 【◎地】 | ○ 住田町や近隣地域の現状と課題を知り、自分の関心に沿ってさらに理解を深めている。 | |
| B | 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 | ○ 目標に向けて情報収集を行い、見通しを持って計画的に活動している。 |
| | | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | 【☆多】 | ○ 調べた情報や考えなどを分析して解釈し、より妥当な考えを取捨選択している。 |
| | | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ○ 課題の解決策を具体的に考え、よりよい発信方法を工夫している。 |
| | | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 | ○ 課題の解決策について積極的に意見を出し、主体的に活動を起こしている。 |
| | | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | ○ 活動が行き詰ったとき、原因を考え、改善して最後までやり遂げようとしている。 |
| C | 人間関係形成に関する資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ○ 調べたことや自分の考えが伝わるように、表現を工夫している。 |
| | | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 | ○ 集団の中での自分の役割を自覚し、互いに協力して活動している。 |
| | | 3 ★他者受容 | 【★受】 | ○ 多様な他者の考えや価値観を受け入れ、広い視野でよりよいものを考えようとしている。 |
| D | 自律的活動に関する資質能力 | 1 ☆感じ取る力 | 【☆感】 | ○ 学んだことを自分事に引き付けて考え、これからの自己の学びや活動への見通しを持っている。 |
| | | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ○ 課題解決の方法を主体的・創造的に考えている。 |
| | | 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 | ○ 自分の良さや可能性に気づき、よりよいものを目指して取り組もうとしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第9時／全14時間）

| 月 | プロセス | 時 | 主な学習活動 | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|---------------|----------|-----------|---|---------------|--|
| 10 | 情報収集 | 1 | ○ 見直した活動計画をもとに、地域の課題を解決するための具体的な計画を立てる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・B1 ☆見通す力(計画シート) ・C2 ☆協働する力(自己評価シート) ・D1 ☆感じ取る力(観察) |
| | 実施・改善 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決のための行動を起こす。 ○ 課題解決につながったのか検証する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・B4 ★好奇心・探究心(観察) ・C2 ☆協働する力(観察) ・D2 ☆創出する力(成果物) |
| 11 ～ 12 | 発表資料づくり | 2 | ○ 自分の探究活動についての発表資料を作成する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・B2 ☆多角的・多面的に考える力(成果物) ・C2 ☆協働する力(ルーブリック) ・D1 ☆感じ取る力(ルーブリック) |
| | プロジェクト発表 | 4 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「マイプロジェクト」について発表する。 ○ 他の人の発表を聞き、意見や感想を述べる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・C1 ☆伝え合う力(ルーブリック) ・C3 ☆他者受容(成果物) ・D1 ☆感じ取る力(ルーブリック) |
| 1 | まとめ・振り返り | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 他学年生徒の発表を聞き、来年度への取り組みの参考にする。 ○ 一年間の地域創造学を振り返り、来年度の探究の見通しを持つ(2学年)。 ○ 一年間の地域創造学を振り返り、地域創造学のまとめをする(3学年)。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・C1 ☆伝え合う力(ルーブリック) ・C3 ☆他者受容(観察) D1 ★自己肯定感(自己評価, 観察) |

※ 「A ◎地域理解」は、本単元を貫くものであるため、記載を省略した。

※ 高校では、生徒が各テーマを設定して取り組む探究的な学習となるため、小単元の記載を省略した。

5 本時の指導

(1) 目標

- ① 調査結果や実践，自分の考えを聴衆に伝わるように発表することができる。

【C1 人間関係形成に関する資質能力 ☆伝え合う力】

- ② 取組の優れた点に気づき，自らの学びに活かそうと考えることができる。

【D1 自律的活動に関する資質能力 ☆感じ取る力】

(2) 評価について

○ 本時のルーブリック

| | | | |
|------------|---------------|---|--|
| パフォーマンス課題 | | 【発表者】すみハピ！プロジェクトで取り組んできた活動の成果発表 【聴衆者】発表に対するグループでの討議，質疑応答 | |
| みとる資質能力 | | C1 人間関係形成に関する資質能力 ☆伝え合う力 | D1 自律的活動に関する資質能力 ☆感じ取る力 |
| パフォーマンスの特徴 | A | ・写真やグラフ等を活用し，調べたことや自分の考えが他者に十分に伝わるよう工夫している。 | ・他者の考えや価値観を受け入れ，発表に対する意見や改善提案が具体的である。 |
| | B | ・他者に伝わるように表現や発表のしかたを工夫しようとしている。 | ・他者の考えや価値観を受け入れ，発表に対して返答しようとしている。 |
| | C (支援の手立て) | ・前回発表時の意見やアドバイスを思い出させる。 ・他者の発表を参考にし，より良いものを目指すよう促す。 | ・他者の考えや価値観を受け入れることで，より良いものを考えるきっかけになることに気付かせる。 |

6 本時の展開

| 段階 | 学習内容・学習活動 | ※指導上の留意点 ◆評価 |
|-----------|---|--|
| 導入 3分 | 1 進め方の確認 ・グループごとに着席 ・本時の活動内容の確認 発表→討議→質疑応答を4セット 2 学習課題の確認 本時の学習課題 ① 【発表者】 調査や実践を他者にわかりやすく発表する。 ② 【聞き手】 発表を聞き、意見や感想を述べる。 | |
| 展開 40分 | 3 発表（各グループ5分） ・発表者：自分の調査や実践を聞き手に分かるように発表する。 ・聞き手：発表を聴いてメモを取り、意見や感想を述べる準備をする。 4 グループでの討議（3分） ・発表者の調査研究や実践に対して素晴らしい点を発見したり、改善工夫すべき点を指摘したりしてグループで共有する。 ・それらを付せん書き出し、用紙に貼り付ける。 5 質疑応答（2分） ・各グループから質問や意見を出す。発表者はそれに対してコメントする。 | ※ 発表者は代表としてふさわしい発表となるよう声量や強弱、話し方のスピードを意識させる。 ※ 聞き手が質問や意見が出せるようグループ内の発言を促す。 ◆ 【発表者】 調査または実践について、これまでの検討や振り返り、資料等を活用しながら聴衆に対して分かりやすく発表をしている。 ◆ 【聞き手】 発表者の研究や実践に対してその価値を認めるとともに、自分の意見を述べたり、改善につながるような質問をしたりしようとしている。 |
| まとめ 7分 | 6 本時の振り返り ・自己評価シートへの記入 | ※ 素晴らしい点や参考となる点を自分たちの取組に取り入れるよう促す。 ※ 次時の取組への見通しを想起させながら自己評価させる。 |

7 生徒の探究テーマ一覧 ◎リーダー

| テーマ | 生徒メンバー | | | | | 担当教員 |
|------------------------|--------|--|--|--|--|------------------|
| 気仙ラーメンの特徴付け | | | | | | ◎利府 山下 紺野 |
| 住田の食材で創作料理 | | | | | | |
| 地域の特産物・郷土料理 | | | | | | |
| 住田が誇れるラーメンを作ろう | | | | | | |
| 住田でカレー | | | | | | |
| 気仙地域の果物を調べ, 新たな果物をつくる | | | | | | ◎板澤 大澤 |
| 地元の野菜や果物をジャムにする | | | | | | |
| 住田町の食材でスイーツやパンを作る | | | | | | |
| 住田でとれた食材でスイーツを作る | | | | | | |
| 住田町の特産物を使ったスイーツを考案 | | | | | | |
| 住田の自然と農業に触れ, 住み心地をよくする | | | | | | ◎西出 木田 |
| 住田町の川・川魚・遊び・絶景 | | | | | | |
| うなぎを使った料理・釣り・たれの開発 | | | | | | |
| 住田の特産物を有名にしたい | | | | | | |
| 住田の森林の歴史と自然 | | | | | | |
| お年寄り | | | | | | ◎二階堂 三浦 細田 |
| 住田の魅力をつめこんだグッズ | | | | | | |
| お年寄りがリラックスできるマッサージ | | | | | | |
| 住田の魅力をネットワークで発信 | | | | | | |
| 住田の名所を歌にする | | | | | | |